

平成26年9月13日（土）の「仏教女性の集い」

今回は、「いつも開催の第三土曜日では彼岸法要の時期と重なり開催が難しいので、9月はお休みにしましょうか」と言う話も出ましたが、可能であれば日を変更しても開催を望む声が7月の折に多く出ましたので、今日の「仏教女性の集い」は変則的な形での開催となりました。良く晴れ渡った秋の日、初めての参加の方、遠くは長野からの参加の方と多くの参加者の中、開催されました。

近藤先生はお話の冒頭、先般起きた大雨による被害地域の方々への慰問の言葉と共に、現代社会への警鐘を鳴らされていました。

ご法話は浄土宗新聞に記載されていた前回お話の中にあつた法然学会の事、NHK心の時代で話された作家、高史明氏の『歎異抄』と出会われた話、法話の中で話された雪山童子の話に法話の多くの時間を使いお話下さいました。



諸行無常 全てのものは常に変化をしていて、諸法無我 我がない
是生滅法
生滅滅已 生まれては消え、生まれては消えていく
寂滅為楽 寂しさが滅して、楽になる。安楽の境涯になる。
無為である。＝三昧
あらゆるものが動いていながら三昧の生活が出来る。
念佛三昧の生活になっていく。

弘法大師のいろは歌につながる。

いろはにほへどちりぬるを
わがよたれぞつねならむ
うゐのおくやまへふこえて
あさきゆめみじゑひもせず

今、生きている命の意味である。

そして最終となる歌を四首お話下さいました。

いつも良いお話をして頂き、心の中に澄んだ花を咲かせて頂きます。お聞かせ頂いたお話を表現することはとても難しく脈絡のない文章になってしまいました。

明日もまた頑張ろう。幸せを感じる一日を過ごそうと思える力を頂きました。

(参加者感想 K. O)



今日のお菓子はきせわたです。

意味は 重陽の前日に菊の花を真綿で覆って、花の香りと露をうつしとり、重陽の節句（9月9日）の日の朝、この真綿で身体を拭うと菊の持つ不老・若返りの効能を受けるといふ行事で菊の上に真綿が覆った形を模したお菓子です。



お持たせのお菓子を色々頂きました。

次回の「仏教女性の集い」は平成26年10月18日です。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時
参加費1,000円 宗教・宗派は問いません。
条件は女性であることだけです。
多数のご参加お待ちしております。
市バス[知恩院前]下車、東へ徒歩150m
『吉水尼僧庵』（旧尼僧道場跡）で開催致しております。
問い合わせは 隆彦院 075-561-7581まで



「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。

<お知らせ>

近藤先生がご法話下さいました法然上人御法語「前編」が今秋10月に刊行されます。
お問い合わせは、隆彦院 075-561-7581まで